

五月の御教え

神は、人間を救い助けてやろうとおもっておられ、このほかには何もないのであるから、人の身の上につけて無駄事はなされない。信心しているがよい。みな末のおかげになる。

……「天地は語る」第二十八条……

解説 私達が信心させて頂いている「天地金乃神様」の『願い』は、『私達人間を救い助

けてやりたい』との思い一つであることは、何とも言えぬ有難いことに思えます。

この天地金乃神様にとっては、人間社会における様々な価値観は全く問題ではなく、只々、私達人間を『救ってやりたい、助かって欲しい』との思いのみであります。そのような思いであられる神様でありますから、私達はこの神様におすがりして行けば、必ず先々立ち行かさせて頂けるのであります。そして、その為には日々の信心の稽古が欠かせません。それは「神人あいよかけよの生活運動」に示されている「神のおかげにめざめ、お礼と喜びの生活をすすめ、神心となって人を祈り助け導く」稽古に勤しむことでもあります。

今年は今教会初代教会長 高橋音五郎大先生六十年の御年柄、一層信心の稽古に励み、大御蔭を頂き、大先生、金光様、親神様に喜んで頂きたいものであります。